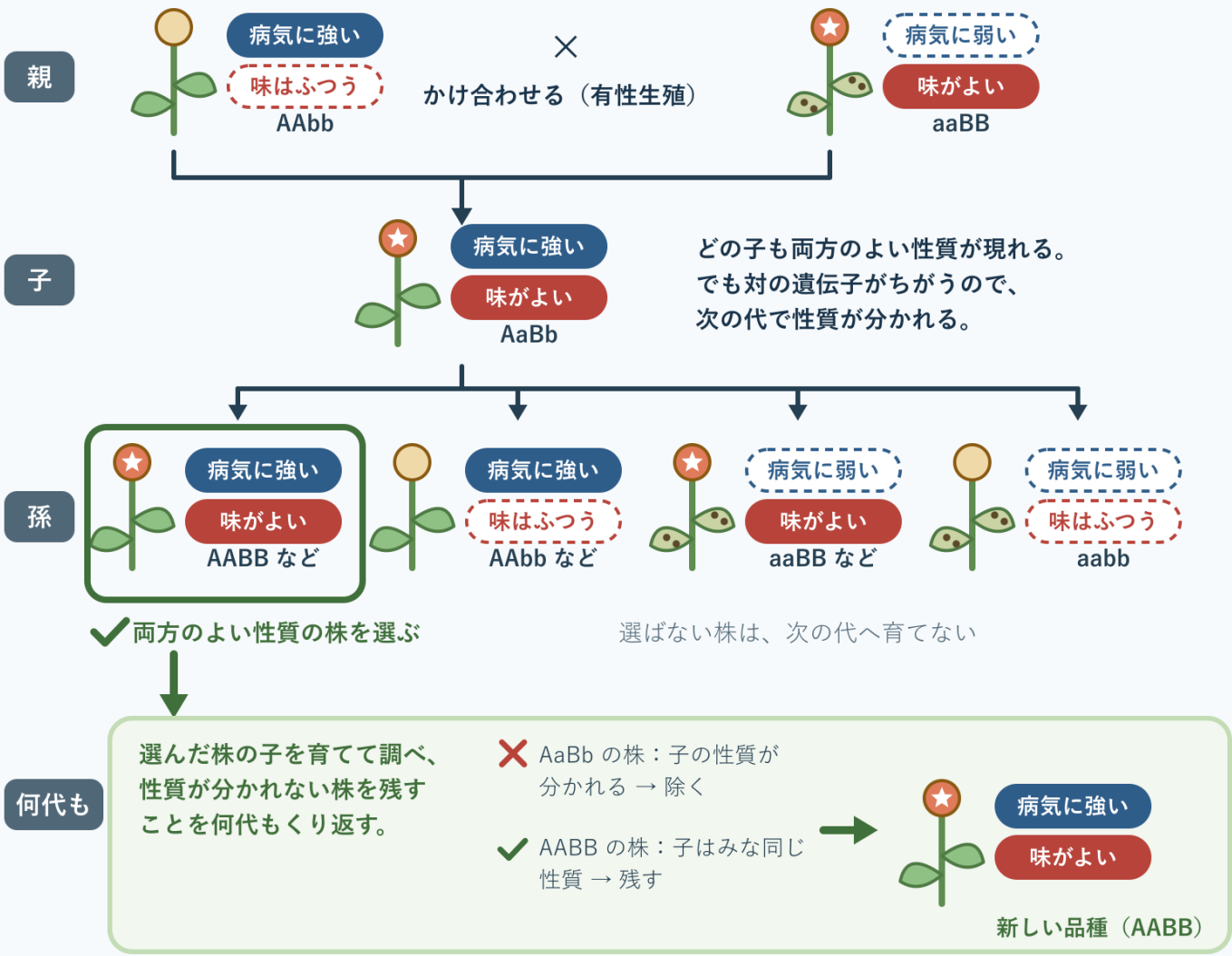
よい性質を組み合わせる品種改良のしくみ

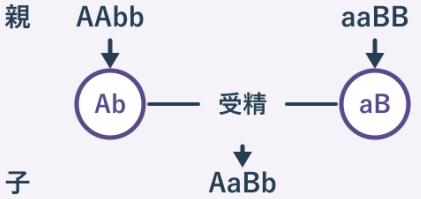
発展：2つの形質

病気に強い品種と味のよい品種から、両方のよい性質をもつ品種をつくるには



遺伝子の記号で見ると

A：病気に強い（顕性）　a：病気に弱い（潜性）
B：味がよい（顕性）　b：味はふつう（潜性）



子の生殖細胞は
対の遺伝子が分かれて入る

AB　Ab　aB　ab

受精の組み合わせで、孫には
いろいろな遺伝子の組み合わせができる。

AABB の株では AB **だけができる**

子もみな AABB になり、
性質がそろう。

顕性・潜性は形質の現れ方を表す語で、
優れている・劣っているという意味
ではない。この例では、よい性質を
顕性とした。

※ 架空の作物の模式。2つの性質がそれぞれ1組の遺伝子で決まるとした。実際はより複雑で、長い年月がかかる。